

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立西濃高等特別支援学校

学校番号

110

自己評価

学校教育目標	<p>企業就労による社会自立に向け、高い志をもち、専門性の高い知識・技能を身に付け、地域や社会に貢献できる人間性豊かな生徒を育成する。</p> <p>① 夢や目標の実現に向け、様々な活動に挑戦し、自ら選択・判断できる生徒</p> <p>② 専門性の高い知識・技能及び態度を身に付け、社会人・職業人として自立できる生徒</p> <p>③ 豊かな人間関係を築き、進んで地域や社会に貢献できる生徒</p>
--------	---

評価する領域・分野	1 「教育活動・学習指導」	
現状及びアンケートの結果分析等 (生徒%, 保護者%)	<p>・教育方針や指導の内容をわかりやすく伝えている。(生 81%, 保 77%)</p> <p>・学校は地域と連携して特色ある教育活動を展開している。(生 77%, 保 80%)</p> <p>・学校の授業には、体験的な活動が取り入れられ、生徒は意欲的に取り組んでいる。(保 79%)</p> <p>・授業は、生徒一人一人に合った教材等が準備されている。(生 78%, 保 70%)</p> <p>・学校の授業内容や進度は、生徒の実態に即している。(保 79%)</p> <p>・学校は、授業や学校行事等を参観する機会を設けて、教育活動について積極的に公開している。(保 78%)</p> <p>※全体的に保護者・生徒とも昨年度より低い評価となっている。</p>	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>・生徒の進路希望や学習状況を踏まえたきめ細かな指導の充実</p> <p>・教育課程、教育内容を十分検討したうえでの基礎的・基本的な学習内容の定着と、社会生活で活用できる実践力の伸長</p> <p>・総合産業科における専門性の高い職業教育、校内研修・研究の推進</p>	
重点目標を達成するための校内組織体制	<p>・教育課程委員会 (教育課程の検討、立案)</p> <p>・教科会、専門コース会 (教科の指導内容の精選と指導計画の立案)</p> <p>・研究推進委員会 (専門性を高める研修や研究の推進、学校・企業視察)</p>	
目標の達成に必要な具体的取組	<p>・定期的な教科会、専門コース会を実施し、指導内容、手だてと評価項目の整理</p> <p>・生徒、保護者と定期的な二者懇談、個人懇談の実施</p> <p>・職員研修や校内研究の継続的な実施と学校視察</p>	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<p>・課題の取組状況、定期考査の取組状況</p> <p>・指導と評価の年間計画の見直し状況、個別の指導計画の合意状況</p> <p>・学校評価アンケートによる理解度の状況</p>	
取組状況・実践内容等	<p>・定期考査を実施し、計画的な学習への取組を促進した。</p> <p>・個人懇談を定期的に行い、生徒一人一人の取組状況を確認し、成果と課題を明確にして継続的な指導に繋げた。</p> <p>・年間を通して職員研修や研究を継続的に実施した。そこで見えてきた課題の改善を図り、必要な研修を積極的に取り入れた。</p>	
評価の視点	評価	
①生徒一人一人への教育支援 (個別の指導計画、懇談による継続的な指導)	A B C D	
②系統的な教科指導と評価方法の確立 (定期考査の実施、評価基準の設定)	A B C D	
③教員の専門性の向上 (職員研修、校内研究の取組状況)	A B C D	
成果・課題	総合評価	
○行事や総合的な探究の時間、自立活動など、各教科や学年、学校全体で連携して効果的な学習を行うことができた。	A B C D	
▲授業参観週間や懇談、学校行事等で多くの保護者に学校での様子を見てもらう機会はあったが、企業や地域に対しての機会が少ない。		
▲系統的、教科横断的な指導内容、評価方法の検討を今後も続けていく必要がある。		
来年度に向けての改善方策案	<p>・生徒個々の実態に合わせた個別の指導計画を作成し、それをもとに生徒の主体的な学習活動を促進する。</p> <p>・職員個々のニーズやキャリアステージにおける研修体制を構築する。</p> <p>・オープンスクールの日程増など、地域に対しての学校PRの機会を増やす。</p>	

学校関係者評価 (令和8年2月19日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より低いとのことだが、8割前後の評価をいただいているのは良い ・地域に対してのPR機会としてオープンスクールの日程増は良いことであり、どのように発信していくかを構築できると良い。 ・個人個人の目標に対する進捗状況を確認して、能力の向上を図れると良い。 ・専門性の高い職業教育の推進について、教育課程委員会を中心とした組織体制で教育活動・学習指導を展開している。さらに、総合学習や行事、授業参加などを通して、活動の見える化に努めてほしい。 ・専門コースでは外部から講師を招くなど、細やかな指導が行われている。長期休み等にもう少し宿題があっても良い。
--

評価する領域・分野	2「生徒指導(教育相談)」	
現状及びアンケートの結果分析等 (生徒%, 保護者%)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ではいじめや差別を許さず厳しく対応している。(生80%, 保75.7%) ・学校の先生は、生徒みんなと信頼し合って活動している。(生81.5%, 保77.3%) ・学校の先生は、自分の将来のことなどについて親切に相談に乗ってくれる。(生82.9%) ・学校の先生は生徒に愛情をもって接している。(生75.7%, 保75.7%) 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係に基づいた共感的な理解と、教育相談の充実による適切な支援 ・発達支持的生徒指導の徹底 ・問題行動に対し、未然防止・早期発見・早期対応に努めた組織的対応 ・交通安全意識と交通マナーの向上 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部、教育相談担当、各学年、特別支援コーディネーター ・外部専門家との連携(教育委員会、スクールカウンセラー、警察等) 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制の整備(SCの定期面談、相談しやすい環境作り、ICTの活用) ・実態把握の強化(「学校楽しいーと」や「心の健康アンケート」の実施) ・日常の生徒観察・声掛け(挨拶、励まし、賞賛、対話) ・各種ガイダンスの開催(情報モラル教育、交通安全教室、薬物乱用防止) 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種アンケートの記入状況、教育相談実施状況 ・行動・言動の様子やアンケートの変化 ・問題行動等の集計結果 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した相談しやすい環境作りを整備。 ・「学校楽しいーと」という質問紙を用い、個々の学校適応感を把握。問題を抱える生徒に対して継続的な教育相談を実施。 ・日ごろから積極的且つ継続的な声掛けを実施。 ・外部講師による、各種ガイダンスを実施。 	
評価の視点		評価
① 教育相談実施状況(定期面談、相談件数)		Ⓐ B C D
② アンケートの聞き取りや対応状況(学校適応感の変化、生徒指導委員会の開催)		A Ⓑ C D
③ 問題行動、交通事故数、欠席・遅刻・早退などの出席状況の変化		A Ⓑ C D
成果・課題		総合評価
○アンケート結果や日常の様子から、生徒の悩みや不安を早期に把握。必要に応じて外部の専門家と連携し、適切な対応を実施できた。 ▲生徒指導委員会での検討が事後対応に偏っている。課題を未然に防止する積極的な生徒指導の展開が必要である。		A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<p>問題行動の未然防止を強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気になる変化があった場合、生徒指導部・学年で共有し、対応方針を速やかに確立する。 ・生徒指導委員会が事後対応に偏らないよう、未然防止の観点で積極的に開催する。 	

学校関係者評価 (令和8年2月19日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動の未然防止の強化は学校生活の中でとても大切なことであり、細かな点にも目を向けてほしい。 ・今後も相談しやすい環境づくりを整備し、悩みや不安を早期に把握し、早期に対応してほしい。 ・生徒一人ひとりの長所を伸ばし、社会で活躍できるよう指導する。 ・生徒指導は保護者との連携が重要であり、今後もコミュニケーションの機会を随時設けてほしい。 ・生徒に何か問題や悩みがあったとき、早くと確に動いていた。
--

評価する領域・分野	3「進路指導」	
現状及びアンケートの結果分析等 (生徒%, 保護者%)	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人一人の良さや可能性を伸ばせるような工夫をしている。(生 82.9%, 保 77.3%) ○進路に関する連絡や情報をわかりやすく伝えている。(生 84.3%, 保 75.8%) ○生徒の実態を的確に捉えている。(生 77.1%, 保 75.8%) ○進路指導において、関係機関と連携している。(生 75.7%, 保 74.2%) ○進路の実現を目指した積極的な学習ができています。(生 82.9%, 保 83.3%) <p>※昨年度の結果に比べると、全体的に評価が下がっている。</p>	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身の自己理解(特性や就職への希望等)を深め、成長に繋げることができる生徒を育てる。 ・自己理解に関わる時間を柔軟に設定する。 ・外部への発信に関わる具体的な行動を多くする。(地域の中学等へ積極的な働きかけ) ・本校の進路に関わる蓄積された情報を地域へ発信する。(大垣市との連携) 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会、各分掌間(生徒の課題に対する共通理解を深める) ・管理職と進路指導部や支援センター部の連携と協力体制。 ・組織力、データの蓄積、教員の能力を発揮させるための決断力と行動力。 	
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り等をタイムリーに行い、自己理解、自己受容へつなげていく。また、担任が授業よりも面談が必要だと感じた時に、生徒と面談を行い課題解決に向かえる時間を確保する。 ・外部への発信は進路指導部だけでなく、学校として計画的に実施する必要がある。 ・メディアを積極的に活用する。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身の自己理解度、自己受容度、精神的な安定等の総合的評価 ・社会(企業)や保護者・生徒の評価 ・就職率や正社員率と卒業生の離職率 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・進路の手引きを中心とした、組織的取り組みと現状を判断した柔軟で素早い対応 ・各学年の課題に応じた、段階的な取り組み ・ホームページ、メディアを活用した情報発信 ・地域(自治体)、企業等が参加するセミナー等での積極的な発表 ・担任等の進路に関する知識・経験値の向上 	
評価の視点	評価	
① 自己理解や自己評価に関わる授業時間の有効活用(柔軟な活用)	A B C D	
② 本校保護者や小中学校の保護者への研修や企業の方への情報発信	A B C D	
③ 3年生の就職率、正社員率	A B C D	
成果・課題	総合評価	
○今年度の就職率・正社員率は、本校としては過去最高の良い結果となった。 ▲教員が大幅に変わっても同じ質を保つよう、教員も努力が必要。 ▲今後も、学校組織として計画的に(戦略的に)理解啓発等の動きをする必要を感じる。また、蓄積され始めたデータを地域の唯一の学校として発信する責任がある。大垣市との連携ももっと進める必要がある。	A B C D	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の唯一の高等特別支援学校、コーディネートできる学校として、組織的に計画的に、地域の小中学校、高等学校、企業と関わり、更に地域に貢献できる学校としていきたい。 ・生徒自身の自己理解や教員の生徒理解については、良い方向に向かっていると感じる。生徒と教師の信頼関係が深まり、生徒自身の自己理解や進路選択が進むようにしたい。 ・成績の良い生徒達が他県へ流失している現状がある。就職面で魅力ある地域にできるよう、積極的に企業の方との対話が必要。 	

学校関係者評価 (令和8年2月19日実施)

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・個性はそれぞれ異なるが、先生方と生徒との信頼関係を軸として対応してほしい。 ・正社員率が過去最高の結果になったことはとても素晴らしい。今後は他県への流出とならない、魅力ある大垣となることを期待する。 ・能力に応じた職場がどのような仕事か指導していけると良い。 ・進路指導の取組は、アンケートでも生徒・保護者から評価されている。県外流出を少なくすることも踏まえ、就職実績を維持し、魅力ある学校であることを入学希望者にも広くPRする必要がある。 ・生徒の意見を聞き、生徒の特性をしっかりと見て指導している。
-----------	--

評価する領域・分野	4「保健管理」「安全管理」	
現状及びアンケートの結果分析等 (生徒%, 保護者%)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生は、医師や看護師、保健室の先生とよく相談している。(生 60.0%, 保 75.7%) ・学校は生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている。(生 81.4%, 保 80.3%) 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が健康的な生活を実践できるよう、保健教育や保健指導等の健康教育を充実させるとともに、学校環境の衛生管理に努める。 ・生徒・職員が安全に対する危機管理意識をもち、適切な判断や行動ができるよう様々な想定での各種訓練を実施し、命を大切にできる生徒を育てる。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全委員会、保健安全部、学年会。 ・学校医及びスクールカウンセラーとの連携。 ・危機管理マニュアルに基づく非常変災時の組織。 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らの健康管理の定着と清潔な校内環境の維持。 ・外部医療機関や外部講師との連携と保健教育の充実。 ・防災や救命に係る研修や訓練の実施。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康のための知識や行動の定着。 ・健康診断における受診勧告の受診率の向上。 ・命を守るための意識と、状況に合わせて行動するための判断力の向上。 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の健康観察の実施とほけんだより(毎月)による啓発活動を実施した。 ・医療機関と連携した健康診断を実施し、必要に応じて医療機関への受診を依頼した。 ・外部講師を招いての防災教室やDIG、命を守る訓練を実施した。 	
評価の視点	評価	
① 毎日の健康観察と環境衛生検査、清掃活動の実施	Ⓐ B C D	
② 健康診断の実施と、健康診断の結果に基づく受診の勧告	Ⓐ B C D	
③ 講習や訓練の実施による、非常変災への備えと自助の意識の向上	Ⓐ B C D	
成果・課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○毎日の健康観察の実施による、生徒の健康状態の把握と早期対応ができた。インフルエンザ等の感染症の校内での流行を防ぐことができた。 ○毎日の清掃と専門コースと連携した定期清掃による、清潔な校内環境の維持ができた。 ○防災意識の向上を図るための、防災講話を実施することができた。 ▲例年、『教師と保健室や学校と学校医との連携』については他の項目よりも「分からない」という回答が多く出る傾向がある。加えて今年度は『安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている』の項目も昨年度より評価が下がっている。業務内容的に問題があるわけではないが、保護者生徒への周知が課題である。 	Ⓐ B C D	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症や熱中症、食物アレルギーなど、より一層の対応・対策を必要とするものが増えている。教師と保健室、さらに学校医や学校薬剤師との連携はますます重要となるので、今後も必要な連絡を密にしていく。 ・線状降水帯やゲリラ豪雨等の頻度の高い災害への対応や、巨大地震やミサイル攻撃等への備えなど、自助と共助の意識と知識、行動力を身に付けられるような防災教育を実施する。 	

学校関係者評価 (令和8年2月19日実施)

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・保健管理に関しては、実際にその場を見聞きしていないと実感がわからないため、数値が低くなるのは仕方ない。 ・健康管理の定着がきちんとされており、感染の流行を防ぐことができ良かった。今後も早期対応で事前の予防をお願いしたい。 ・慌てず慎重に行動することが大切である。 ・健康保持は日常生活において重要である。生徒の健康状態を学校関係者が意識し、関係者間で情報共有を行い、適時なアプローチを継続してほしい。 ・安全管理は予期せぬ災害等に備え、危機管理の時間を継続して設けてほしい。 ・今年の防災教室が現役自衛隊員の話であったことは良かった。現実味があり、空気も引き締まっていた。
-----------	--

評価する領域・分野	5「保護者との連携」「個別の教育支援計画の合意形成」	
現状及びアンケートの結果分析等 (生徒%, 保護者%)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生は、個別の教育支援計画を家の人と相談し、自分の目標をわかりやすく説明している。(生77.1%) ・家の人の考えや自分の希望が個別の教育支援計画に反映されている。(生81.4%) ・学校の先生は、個別の教育支援計画を保護者や関係機関と連携して作成し、将来を見通した支援をしている。(保78.8%) ・保護者や関係諸機関の意見が個別の教育支援計画に反映されている。(保77.0%) 	
今年度の具体的なかつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の教育活動に効果的に活用できる「個別の教育支援計画」を、関係者、保護者、生徒と共に策定できるようにする。 ・保護者や関係機関と連携を図り、生徒が地域や学校において、地域社会の一員として充実した生活を送ることができるように支援する。 ・生徒の健全な発達及び福祉の増進を図るため、保護者が主体的にPTA活動に取り組むことができるよう支援する。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援部、学年会、ケース会 ・PTA本部役員会 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者の意見を反映できるよう「個別の教育支援計画」の作成手順を整え、懇談時に協議をする。 ・学年会及び各コースの担当者による生徒の情報を共有する。 ・PTA本部役員会、各種委員会へ協力する。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談時の協議内容 ・PTA活動への出席状況 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で話し合った意見を反映させられるように事前に記入用紙を配付し「個別の教育支援計画」作成した。 ・生徒との懇談を随時行い、その都度目標を修正及び確認を行った。 ・「個別の教育支援計画」「キャリアパスポート」「実習報告」等の連続性をわかりやすくした。 ・懇談(定期)の他、必要に応じ関係分掌の職員や関係機関等メンバーを交え、個別の教育支援計画の内容の共有と改善に向けた協議を充実することができた。 ・PTA本部役員会や各種委員会を年度当初の計画通り実施することができた。昨年度より、企業見学等の参加者が増えた。 	
評価の視点	評価	
① 学校と保護者の連携状況	Ⓐ B C D	
② 懇談時の保護者の思いや本人の願い手立て、合理的配慮の共有状況	Ⓐ B C D	
③ 保護者同士の活動の交流や意見交流の状況	A Ⓑ C D	
成果・課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○懇談時に本人や保護者の願い等を確認し、支援につなげることができた。 ○必要に応じて懇談やケース会議を実施、関係機関との連携を図ることができた。 ○PTA活動を年度当初の計画通り実施することができた。 ▲PTA活動への参加者が徐々に増えてきているものの3割弱と少ない。 	A Ⓑ C D	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健全な発達を促すような支援につながるよう保護者、関係機関等と連携を図り、個別の支援計画の策定をする。 ・PTA活動内容を精選し、会員の方が多く参加してもらえるような研修及び会員同士が交流できる場を企画していく。仕事の都合で参加が難しい方が多いとも考えられるので、資料を配付したり動画を発信したりしていく。 	

学校関係者評価 (令和8年2月19日実施)

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との密な連携はとても大切であり、これまでと同じように情報共有をしてほしい。 ・PTA活動への参加や交流ができるような企画・発信の充実を図れると良い。 ・個別の教育支援計画について、定期的・必要な懇談の実施を求める。 ・保護者同士の交流が図れるような行事があると良い。参観日の後に研修会を行うなど一日にまとまると良い。
-----------	---